

エネルギー基本計画、新成長戦略の核として



経済産業省資源エネルギー庁
電力・ガス事業部長
横尾 英博

ヒートポンプ・蓄熱システムは省エネルギー・CO₂削減に大きく寄与するのみならず、経済成長の実現にも貢献することができます。政府は今年6月にエネルギー基本計画の改定版と新成長戦略を閣議決定しましたが、エネルギー基本計画、新成長戦略ともにヒートポンプの重要性を取り上げています。エネルギー基本計画ではヒートポンプをはじめとする家庭用高効率給湯器の普及目標を盛り込みました。新成長戦略では「グリーン・イノベーション」による環境・エネルギー大国を目指す必要性に触れていますが、イノベーションの一つとしてヒートポンプを取り上げています。

また、これからは太陽光発電をはじめとす

る再生可能エネルギーが大量に電力系統に入ってきますが、系統対策として新しい需要を創出するヒートポンプの役割にも期待しています。その一方で、7月には国際エネルギー機関(IEA)が「エネルギー技術展望2010」という報告書をまとめましたが、この報告書の中では、2050年にCO₂排出量を現行比で半減する大きな手段として、化石燃料の暖房から効率の良いヒートポンプへの転換がうたわれています。このように、日本のみならず国際的にもヒートポンプ・蓄熱システムの重要性は高まっています。今回感謝状を贈呈される112の企業・団体の皆様方が、普及拡大や技術開発において、先導的な役割を担われていくことをご期待申し上げたいと思います。

感謝状贈呈先代表挨拶

「還暦」を迎え、環境・省エネルギーへの取り組みをより一層強化



(社)日本冷凍空調工業会会長
有馬 秀俊

日本冷凍空調工業会は、家庭用から大型業務用・産業用の冷凍空調機器を製造・販売している業界団体で、昨年に設立60周年を迎えました。「還暦」を迎え、環境・省エネルギーへの取り組みをより一層強めなければならないという思いで61年目をスタートしています。

当工業会が掲げている重点目標の一つに「地球環境問題への適切な対応」があります。冷凍空調機器の省エネルギー性や高効率化を追及する一方、ヒートポンプ技術の開発に

も努力してきました。2001年に製品化したエコキュートは累計販売台数が200万台を超えるヒット商品になったほか、業務用・産業用の技術開発も進めています。また、ヒートポンプは6月に閣議決定した政府の新成長戦略でもその普及が期待されているところです。その期待を受け、当工業会や会員企業に対し、ヒートポンプの省エネ性を高めようという声は今後も出てくると思いますが、ご期待に応えられるよう頑張っていきたいと思っています。

大学での技術開発と省エネルギーの両立



名古屋大学総長
瀨口 道成

今、大学は苦しい時代に入り、施設を改変する資金が不足しています。その中で当大学の施設管理部からESCO事業を紹介され、動物実験施設に適用したところ、初期投資がほとんどいらずに施設を劇的に改変することができました。この成果をもとに大学病院の中央診療棟、校舎1号館の冷暖房施設、また附属図書館でもESCO事業をスタートさせ、この2年余りで7,000tのCO₂を削減できました。大学全体では70,000tのCO₂を排出していましたが、そのうちの10%近くを削減できたこととなります。本当

に、ヒートポンプの効果を実感しています。

大学是最先端の技術開発を行っているの、多くのエネルギーを消費します。省エネルギーは大学にとって大きな課題となっています。当大学では、施設管理部がよく研究し、ESCO事業者とよく協力し、また我々が現場で説明を受け、実体験をしてみた結果、ヒートポンプによる省エネルギーを実現できました。この経験をもとに、今後も技術開発と省エネルギー、CO₂排出抑制に取り組んでいきたいと思っています。